

確かな学力をつける

具体的な進め方

- 1・2年生・・・宿題中心の学習に取り組み、基礎・基本の定着を目指す
- 3・4年生・・・宿題＋自分で考え課題に取り組む学習
- 5・6年生・・・宿題＋自主学習

進めるにあたって … 特に高学年の場合 …

学年が上がるにつれ、課題や自主学習の量も増えますが、自ら学ぶ学習を身に付けさせたいところです。

自主学習には、一人一人が自分に合った学習内容を調べるため、学習に対して主体的になれるという利点があります。最初は、何をやらたいかわからず、ヒントが欲しいと考えることでしょう。思ったように進めず、いらいらする姿が出てくるかもしれません。時に投げやりだったり、仕上がり具合が大人の目からするとずいぶんいい加減に見えるかもしれません。

そんな時は、向き合ってください。「やりなさい」と叱るのではなく、今どんな力が試されているのかを保護者の立場から伝えてほしいのです。ペースはそれぞれであっても、真剣に取り組むことが大切だということ、いつもは時間に追われているけれど今はじっくり取り組むことができること、学習の主人公は自分自身であること、そしてやり遂げる力を一人一人持っていること。

自分から進んで学習する習慣を身に付けること

は、これからの長い人生の中で、最も求められていくことです。目先の学力ではありません。やらされるのではなく、課題意識を持って取り組む子供を育てるためには、誰かに頼む、他の機関を利用するといったことよりも、身近な大人が真剣に向き合うことが大切になっていきます。

家庭任せと思う向きもあるかもしれませんが。上級生の学習はやり方がわからないと、さじを投げてしまいたいと思うかもしれません。

繰り返しになりますが、ここで根気強く向き合い、勉強を続ける意義をしっかりと伝えていくことは、子供の生きる力を育てることにつながります。ドリル的な基礎学習だけではなく、興味をもって調べる学習を取り入れるチャンスと捉えさせてください。学習課題を見つけて計画的に進めることは、自分の人生の舵を握ることだと子供にわかる言葉で伝え、励ましてください。

子供たちの幸せのために、共に手をつないで進んでいきましょう。



明けない夜はない
シェークスピア「マクベス」より

読書習慣の確立

外に出られない時だからこそ、家庭での読書タイムを大切にしてください。中高生であっても、名作の読み聞かせは心にしみるものがあります。例えば、読み聞かせの時間を設けることができれば、子供は安定して耳を傾けるでしょう。家族みんなが、一つの部屋に集まり、静かに本のページをめくる時間を作ってみれば、子供は落ち着いて過ごすことができるでしょう。

こんな時だから、家族で新しい習慣を作ることに取り組んではいかがでしょうか。読書習慣をつけることは、子供の発想を豊かにさせる学びの入り口です。

【学びの情報】

※以下のHPで学習プリントをダウンロードすることができますのでご活用ください。

○宮城県総合教育センターHP「みやぎ単元問題ライブラリー」

<http://www.edu-c.pref.miyagi.jp/support/tangen/>

○文部科学省HP「子供の学び応援サイト」

http://www.mext.go.jp/_menu/ikusei/gakusyushien/index_00001.htm